

記 録

## 岡山県におけるアライグマの生息情報

岡山県自然保護センター 森 生枝

### Records of feral raccoon in Okayama Prefecture

Ikue MORI, Okayama Prefectural Nature Conservation Center

キーワード：聞き取り調査, 特定外来生物.

#### はじめに

アライグマ *Procyon lotor* (Linnaeus, 1758) は食肉目アライグマ科に属する北米原産の中型哺乳類で、日本でも47都道府県すべてで生息が確認されるようになった外来生物である(池田, 2006; 金城・谷地森, 2007)。アライグマはこれまで日本に侵入した外来哺乳類のうち、ごく最近になって広がった種類でありながら、著しい農業被害や生活被害を引き起こしており、放置すれば将来さらに被害が拡大すると予想されている。さらに人獣共通感染症の潜在的ホストであり、生態系へのインパクトも大きいと考えられている(鮫島・坂田, 2009)。

岡山県におけるアライグマの分布については全くわからない状態であった(小林・川原, 2010)ことから、アライグマの生息状況を把握することを目的に、2010年4月から痕跡調査および聞き取り調査を開始した。ここでは、2010年の記録(森, 2011)以降に明らかになった事実を報告する。

#### アライグマ野生化の経緯

アライグマは、日本では主として展示目的および愛玩動物として輸入された(金田・加藤, 2011)。日本での野生化に関する最初の記録は、1962年の愛知県犬山市での逸出例である(安藤・梶浦, 1985; 揚妻, 2004)。1977年に放映された

テレビアニメで人気を博した後、1980年代のペットブームに、多くの個体が飼養目的に流通し、国内各地で飼育施設からの逸走や飼いきれなくなった個体の放逐が次々に起き、その結果として、野生化したアライグマの分布が拡大したとされている(Ikeda *et al.*, 2004)。1994年度からは狩猟獣に指定された。外来生物法が整備される2005年までは、鳥獣の保護および狩猟の適正化に関する法律(鳥獣保護法)にもとづいて、有害鳥獣として捕獲されていたが、際して「奥山放獣」が指導されてきた経緯があり、移動・放獣という人為によって分布拡大が加速したと考えられている(金田・加藤, 2011)。2005年の特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(外来生物法)の施行と同時に特定外来生物に指定され、飼養、運搬等に規制が設けられた。

#### これまでの概要

2010年4月から11月まで、岡山県内全27市町村から58の社寺等を選び、爪痕等の痕跡を調査した結果、全体の74%にあたる43の社寺等でアライグマによると思われる痕跡を確認した。また、同時期にアライグマの目撃情報等について岡山県野生動物調査検討会のメンバーを中心に聞き取り調査を行った結果、倉敷市、岡山市、浅口市、津山市、備前市、和気町、吉備中央町付近、井原市の計8市町から目撃もしくは捕獲の情報を得た。これらの事実から、アライグマはすでに岡山県内にも広く分布していることが推測された(森,

2011)。

## 方 法

調査は、2011年4月から12月まで、岡山県野生動物植物調査検討会のメンバーを中心にアライグマの目撃情報等についてこれまでと同様に聞き取るという方法で行った。伝聞情報については可能な範囲で情報の照会を行い、確証を得るよう努めた。

## 結 果

2011年の調査期間に得られた情報は14件であった。これに、2010年の調査結果を加えると24件の情報が得られたことになる(表)。これまでに目撃および捕獲情報が得られたのは、倉敷市、岡山市、浅口市、津山市、備前市、和気町、吉備中央町付近、井原市、瀬戸内市、赤磐市、高梁市の11市町であり、2011年に新たに3市が加わった。

## 考察と提言

### 1. 情報件数の推移および確認地点

各年の情報件数をみると(図)、2004年までは確認件数は少なかったが、2007年以降は毎年認められるようになり、2010年には8件、2011年にも8件と、それまでと比べて大幅に増加した。2010年以降の情報件数の増加は情報提供の呼びかけの結果とも読み取れるが、2011年7月には、岡山市北区今岡で、一度に2頭の目撃があるなど、定着の始まりを疑わせる情報も得られた。特筆すべき点として、岡山市北区今岡に位置する山陽自動車道の吉備サービスエリアを中心に半径約10kmの圏内に8件の情報が集中していた(表中番号2, 3, 5, 15, 19, 22, 23, 24)。

山崎ほか(2009)は、茨城県においてアライグマの生息情報を集めた結果、情報地点が常磐高速道路の近傍に分布する傾向があることを示したうえで、「首都圏でペットとして飼育されていたアライグマが、飼い主により常磐高速道路を使って茨城県内の里山地域に遺棄された可能性も考えられる」(山崎ほか, 2009)としている。また、古谷(2009)は「アライグマの発生地と被害の頻発地には不思議と共通点がある。それは、首都圏から伸びる高速道路が、そろそろ郊外に出たあたりの最初のインターチェンジやサービスエリア付近

から、アライグマ発生の報告が多いということだ。東京近郊でいえば、東北道の岩槻インター周辺、関越道の東松山周辺などは、最近急激にアライグマが増えてきたところだ」と記している。

岡山県においても、今後はこうした観点も踏まえたいうえで、丹念に情報を拾い上げていく必要がある。

### 2. 防除に向けて

他県における近年のアライグマ捕獲数急増の状況を鑑みると、少なくとも表中で複数回の目撃情報等が得られた地域については、早急な対策が必要だと考えられる。特に吉備サービスエリア近傍については、緊急防除の必要があると考える。

浅田・篠原(2009)は、千葉県におけるアライグマの捕獲データから「生息密度が4頭/km<sup>2</sup>以上の高密度の場合、1頭の捕獲に必要な捕獲努力量は約60ワナ日以下だが、2頭/km<sup>2</sup>以下の低密度になると、急速に必要なワナ日数が増加する」と記している。また、山崎ほか(2009)は、茨城県におけるアライグマの生息動向から「アライグマの定着が初期段階の低密度下においては、捕獲効率が著しく低い(0.1頭/100ワナ日\*程度)ため、長期的な視野に立った人的・資金的な支援が必要不可欠である」としている。

定着の初期段階を経て、急激な個体数増加(被害増加)の過程のなかで、防除が進み、生息密度を低く抑えることができるようになった段階においても、同様に捕獲効率の低下は起きる。この場合にも低い捕獲効率のなかで、ワナを稼働し続けることが強いられる。ならば、定着初期の段階にしばらく辛抱して相応の捕獲努力量を投入するのが得策だと考えられる。外来種問題において初動体制が最重要だといわれる所以である。初動体制の強化により、全体の人的労力や殺処分する動物の数を減らすこともできる。シミュレーションの結果、捕獲を全く行わない場合、アライグマの個体数は年増加率48%という高い割合で増加することが明らかになっている(坂田, 2009)。実際には野外での生息が確認されてからしばらくの間はそれほど劇的な増加は見せないが、10年程度の目立たない期間を経てから急激に増加することが北海道や神奈川県で知られている(野生動物保護管

表. 聞き取り調査によって得られた岡山県におけるアライグマの情報.

| 番号 | 年    | 月日     | 目撃・捕獲情報                         | 目撃・捕獲情報    |    |
|----|------|--------|---------------------------------|------------|----|
| 1  | 1990 | -      | 倉敷市連島町連島で目撃 (90年代以降複数回の目撃)      | 佐藤, 私信     | *  |
| 2  | 1999 | 3月6日   | 岡山市北区津高で捕獲                      | 山陽新聞, 1999 | *  |
| 3  | 2004 | 5月6日   | 岡山市北区菅野で目撃                      | 高原, 私信     | *  |
| 4  | 2007 | 1月-日   | 岡山市南区東畦で目撃                      | 森による聞き込み   |    |
| 5  |      | -      | 岡山市北区津島中で目撃                     | 中富, 私信     |    |
| 6  | 2008 | 12月1日  | 浅口市 (旧寄島町) 寄島干拓で目撃              | 佐藤, 私信     | *  |
| 7  | 2009 | 11月11日 | 中国自動車道下り線 (津山市) で交通事故死体目撃       | 金田, 私信     | *  |
| 8  |      | -      | 瀬戸内市邑久町本庄で目撃                    | 森による聞き込み   |    |
| 9  |      | -      | 備前市新庄で目撃 (2件)                   | 池本, 私信     | *  |
| 10 |      | -      | 赤磐市 (旧熊山町) 石蓮寺で目撃               | 橋本, 私信     |    |
| 11 |      | -      | 和気町田原上で目撃                       | 森による聞き込み   |    |
| 12 | 2010 | 5月31日  | 和気町 (旧佐伯町) 小坂で目撃                | 難波, 私信     | *  |
| 13 |      | -      | 岡山市北区建部町建部上で目撃                  | 森による聞き込み   |    |
| 14 |      | 9月3日   | 岡山自動車道上り線 (賀陽ICよりやや北) で交通事故死体目撃 | 池本, 私信     | *  |
| 15 |      | 10月27日 | 岡山市北区津島新野で目撃                    | 森による聞き込み   | *  |
| 16 |      | 11月2日  | 井原市 (旧芳井町) 川相 (小田川) で捕獲         | 小林, 私信     | ** |
| 17 |      | -      | 浅口市 (旧鴨方町) 益坂で目撃                | 森による聞き込み   |    |
| 18 |      | -      | 高梁市上谷町で目撃 (夏期)                  | 森による聞き込み   |    |
| 19 |      | 7月24日  | 岡山市北区今岡で目撃 (2頭)                 | 岡山市より      |    |
| 20 | 2011 | 10月2日  | 津山市山下 (鶴山公園) で捕獲                | 津山市より      |    |
| 21 |      | 10月-日  | 高梁市上谷町で目撃                       | 森による聞き込み   |    |
| 22 |      | 11月4日  | 岡山市北区西辛川で目撃                     | 松山, 2011   |    |
| 23 |      | -      | 岡山市北区菅野で捕獲                      | 森による聞き込み   |    |
| 24 |      | 12月23日 | 岡山市北区尾上で目撃                      | 森による聞き込み   |    |

出典：\*：森 (2011).

\*\*：岡山理科大学理学部動物学科のホームページ；<http://www.zoolous.ac.jp/2010.html>, 2011/11/25.

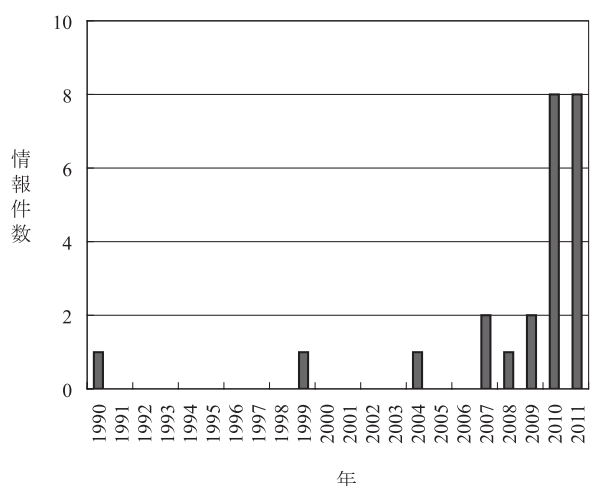


図. 岡山県における1990~2011年の間のアライグマ情報件数の年ごとの推移.

理事務所, 2008)。

アライグマの対策については国内にも数多くの先進事例があり、ホームページ上でも公表されている。岡山県においても、アライグマの生息情報が得られたりアライグマと疑われるような被害が発生したら、即座に生息確認を行い、防除を進めるべきである。最低限の捕獲体制を整えた上で、まずは、ワナを置きながら考えていくことを提案したい。

### 謝 辞

関西野生生物研究所の川道美枝子氏、金田正人氏、加藤卓也氏には、アライグマの生態や各地での被害対策等について多くのご教示をいただいた。岡山理科大学の小林秀司先生、岡山県自然保護センターボランティアの中富明子氏、橋本智明

氏からは貴重な情報をご提供いただいた。記して感謝の意を表します。

\* 0.1頭/100ワナ日、つまり1頭捕獲するのに1000ワナ日必要の意。たとえば50基のワナを20昼夜稼働、20基であれば50昼夜稼働、10基であれば100昼夜稼働させることを意味する。

## 引用文献

- 揚妻-柳原芳美, 2004. 愛知県におけるアライグマ野生化の過程と今後の対策のあり方について. 哺乳類科学, 44 (2) : 147-160.
- 安藤志郎・梶浦敬一, 1985. 岐阜県におけるアライグマの生息状況. 岐阜県博物館調査研究報告, 6 : 23-30.
- 浅田正彦・篠原栄里子, 2009. 千葉県におけるアライグマの個体数試算 (2009年). 千葉県生物多様性センター研究報告, 1 : 30-40.
- 古谷益朗, 2009. アライグマ発生の方程式. 「ハクビシン・アライグマ—おもしろ生態とかしこい防ぎ方—」. 農山漁村文化協会. 52p, 東京.
- 池田 透, 2006. アライグマ対策の課題. 哺乳類科学, 46 (1) : 95-97.
- Ikeda, T., Asano, M., Matoba, Y. and Abe, G., 2004. Present status of invasive alien raccoon and its impact in Japan. Global Environmental Research, 8 (2) : 125-131.
- 金田正人・加藤卓也, 2011. 特集: 爬虫両生類における外来生物問題とその対策 外来生物アライグマに脅かされる爬虫両生類. 爬虫両棲類学会報 (2) : 148-154.
- 金城芳典・谷地森秀二, 2007. 愛媛県松山市で捕獲されたアライグマ *Procyon lotor*. 四国自然史科学研究, 4 : 27-29.
- 小林秀司・川原啓路, 2010. 哺乳類. 岡山県版レッドデータブック2009 絶滅のおそれのある野生生物 (動物編) (岡山県野生動植物調査検討会編). 25-29.
- 松山定道, 2011. 岡山県内文化財 アライグマ被害相次ぐ 爪で損傷 対策手つかず (1面), 岡山文化財アライグマ被害続出 生息既に相当数か 県内防除計画 津山, 鏡野のみ 捕獲体制整備が急務 (31面). 2011年12月28日付 山陽新聞.
- 森 生枝, 2011. 岡山県におけるアライグマの痕跡調査. 岡山県自然保護センター研究報告 (18) : 89-94.
- 坂田宏志, 2009. 生息頭数変化に及ぼす捕獲効果のシミュレーション. 兵庫県森林動物研究センター 兵庫ワイルドライフモノグラフ1号 兵庫県におけるアライグマの現状. 11-18.
- 鮫島弘光・坂田宏志, 2009. 国内・国外の事例について. 兵庫県森林動物研究センター 兵庫ワイルドライフモノグラフ1号 兵庫県におけるアライグマの現状. 66-76.
- 山崎晃司・佐伯 緑・竹内正彦・及川ひろみ, 2009. 茨城県でのアライグマの生息動向と今後の管理課題について. 茨城県自然博物館研究報告 (12) : 41-49.
- 野生動物保護管理事務所, 2008. 平成19年度関東地域アライグマ防除モデル事業調査報告書. 122pp.